



9年間を見通した食に関する指導の目標			
低学年	中学年	高学年	中学校
<ul style="list-style-type: none"> 食べ物に関心を持ち、楽しく食べることができる。 食べることの大切さが分かる 	<ul style="list-style-type: none"> 食べ物の働きを知り、バランスよく食べることができる。 健康に過ごすために、1日3食バランスよく食べることが大切であることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食にかかわる人々や自然の恵みに感謝して食べることができる。 食の大切さや食文化を理解し、簡単な食事を作ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食物の動きや栄養、食文化について理解を深め、献立や調理に関心を持ち、日常生活に生かしていくことができる。

【今年度の食に関する指導の重点目標】

○赤・緑・黄色のグループの食べ物が分かり、特に朝食は、3つのグループの食べ物がそろった食事を意識して食べる。
→知識・技能 思考力・判断力・表現力

○自分の食生活を振り返り、健やかな体づくりを目指した食事の習慣を身に付ける。→学びに向かう力・人間性

食育推進組織 (保体部)

委員長：保健主事
委員：保健主事、体育主任、給食主任、養護教諭、栄養教諭、学級担任

【食に関する指導】

教科等における食に関する指導：関連する教科等において食に関する指導の視点を位置付けて指導
社会、理科、生活科、家庭科、体育科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動など

給食の時間における食に関する指導

食に関する指導：献立を通して学習、教科等で学習したことを確認
給食指導：準備から片付けまでの一連の指導の中で習得
個別的な相談指導：朝食欠食、肥満傾向、やせ傾向、食物アレルギー、疾患、偏食、スポーツ等

【地場産物の活用】

献立委員会：年間計画に基づき、計画的に献立に取り入れる。
物資購入委員会：できるだけ県内産物資、国産物資を選定する。
校内放送や給食カレンダー、掲示物を使用した指導、教科等の学習や体験活動と連携を図る。

【家庭・地域との連携】

健康や食育、給食について家庭・地域の理解と協力を求めるとともに、家庭における食生活改善の関心を高める。
給食献立表の発行及び校区内のスーパーマーケットに配布、給食だよりの発行、食育通信の発行、いきいきにっこり生活週間の実施、給食学習会の開催、料理教室の開催、学校保健委員会の開催

【食育の評価】

活動指標：計画に基づき食に関する指導ができたか。家庭や地域の協力を得て、組織的に指導ができたか。
成果指標：朝ごはんに、3色の食べ物を食べている児童の割合70%以上を維持する。(いきいきにっこり生活週間カード)